

※ 2日コースについてお問い合わせください

研修プログラム

お問い合わせ
オフィスJ.corporation
03-3414-2111
<https://www.officej-corporation.jp>

時間	※ 進行の都合上、プログラムの順序などは入れ替えることがあります	
	項目	補足
午前	<p>1. プレゼンテーションと説明責任(基礎講義)</p> <p>(1)「伝える」ための3大ツール～共通点と違い (2)自治体職員として—説明責任の重要性</p> <p>2. 「伝わるプレゼンテーション」であるために</p> <p>(1)プレゼンの出発点＝「相手の言葉」で説明を (2)情報の視覚化 (3)レディネス(相手の予備知識)の把握</p> <p>3. わかりやすく効果的な話の組み立て</p> <p>(1) SDS法とWhole-Part法(「起承転結」の常識とウソ) (2)伝達する項目と内容を絞る (3)話のスピードと間の重要性 (4)「起承転結」の常識とウソ (5)漢語熟語はNG＝耳に馴染む和話を優先 (6)時間がないときの省略の2タイプ (6)「項目の階層化」を明確にする推奨話法 (7)話に区切りをつける「題目語の先出し」</p> <p>4. 対個人・対集団プレゼンテーションのコツ</p> <p>(1)「資料あり」の説明、「資料なし」の説明の違い (2)ボディランゲージとアイコンタクト (3)プレゼンテーションの土台を築く「傾聴力」 (4)講評と感想の大きな差異 (5)呼びかけ文の乱発は「説明」の範疇超過 (6)「小項目」のナンバーリングにご注意</p>	<p>○ レディネスの把握</p> <p>「レディネス」とは聞き手(説明を受ける側)の予備知識のこと。聞き手の予備知識に応じた説明をすることがプレゼンテーションの鉄則である</p> <p>○ SDS 法と Whole-Part 法</p> <p>SDS 法とは「Summary → Details → Summary」の頭文字を取ったもので、「結論または総論を先に」という考え方。Whole-Part 法とは「全体から部分へ」という考え方。いずれも起承転結の逆。</p> <p>○ 情報の視覚化</p> <p>諸々の情報を垂れ流しで伝えるのではなく、聞く人の心のスクリーンに「情景を思い描きやすい情報」に変換して伝えるテクニック。オフィス J. corporation で用意した題材を基に、情報伝達のスキルを学びます</p> <p>○ 時間がないときの省略の2タイプ</p> <p>例えば伝達項目が10あったとして「1項目ずつ時間短縮」するやりかたと、「項目数を削減する」やり方</p> <p>○ 題目語の先出し</p> <p>例／…………が埼玉県の政策です(題目語後出し) 埼玉県の政策は…………です(題目語先出し)</p>
12:00		昼休み
13:00	<p>5 .【演習】模擬住民説明(対集団プレゼン)</p> <p>(1)グループ内でプレゼン(個人単位) (2)グループ内での講評・アドバイス (3)講師による全体講評</p> <p>6.ロジカルプレゼンテーション ～政策プレゼンテーション能力を磨く～</p> <p>(1)政策の計算式 (2)「ネガティブの解消型」と「ポジティブの拡大型」</p> <p>7 .書面プレゼンテーションのポイント</p> <p>(1)読みやすい1文の平均字数は35～65文字 (2)表の縦罫線はカットするとスッキリする (3)説明したい方向に誘導するグラフ作り (4)視線の可動範囲と書類の読みやすさ (5)ホワイトスペースの活用(余白は手抜きに非ず) (6)可読性、視認性を考慮したフォント選びを (7)図解と説明文は近接 (8)リードの役割とAIDAの法則 (9)磁力の弱い単語系見出しと磁力の強い文章系見出し (10)長体と平体、フォントの差別化</p> <p>8 .発信力を高めるパワーポイント</p> <p>(1)DXの推進と説明資料の変遷 (2)会場最後列の人との「距離」に配慮 (3)1枚のスライドの平均説明時間 (4)ワンスライド・ワンメッセージ (5)アニメーションの多用は嫌われやすい (6)パワポは睡眠薬? Power-Pointの弱点 (7)「ノート」の充実と発表者ツール</p>	<p>○ 講師による全体講評</p> <p>プレゼン演習で受講生が陥りやすい「数値データの羅列」「(活字資料に頼るあまりの)漢語熟語の使いすぎ」「大項目と小項目のナンバーリングの混亂」「マイナス・プラス話法とプラス・マイナス話法」などを解説。</p> <p>○ 政策の計算式</p> <p>政策 = 目標 - 現状</p> <p>○ ロジカルプレゼンテーション</p> <p>「インフルエンザの予防注射は△月△日、行います」といった告知伝達型プレゼンでは、重要事項の強調が大切で、「論理性」は必要とされない。翻って行政の施策などを周知したり、住民の同意を得るために政策プレゼンでは「論理性」も求められる。政策プロジェクトや事業案を住民説明する際のポイントを解説。</p> <p>○ 「ネガティブの解消型」と「ポジティブの拡大型」</p> <p>「ネガティブの解消型」は現状がマイナス状態であり、その改善を目的とする政策(事業)タイプ。 「ポジティブの拡大型」は住民にとっての理想像を設定し、それを追求していくもの。</p> <p>○ ホワイトスペース</p> <p>ホワイトスペースとは余白のこと。余白があることで、余裕のある情報処理が可能となり、余白がなくなると、情報処理の余裕がなくなり文字を読み飛ばしやすくなる。</p> <p>○ リードの役割とAIDAの法則</p> <p>「リード」とはいわゆる導入文のこと。タイトルと本文の橋渡しをする、通常150～200字の小文。AIDAの法則とはAttention(注意を引く) Interest(関心を持たせる) Desire(必要性を訴える) Memory(記憶に刻む) Action(実行に移す)の頭文字を取ったもの。</p>
午後		